

<共同教育学部・情報学部合同開催 留学生シンポジウムの報告>

留学生シンポジウムが2021年12月8日に開催されました。留学生シンポジウムとは、毎年群馬大学共同教育学部、情報学部 に属する GFL 生が主体となり企画・運営している国際交流行事で、異文化への理解・留学生との交流を深めることを目的としています。以下に、今年度の留学生シンポジウムの報告をします。

<留学生による発表>

1. バーナーティ ポルバーラさん (ハンガリー 情報学部交換留学生)

母国である、ハンガリーの 1) 特徴、2) 食べ物、3) 楽器について紹介していただきました。ここではそれぞれの分野について紹介をさせていただきます。

- 1) ハンガリー国土面積は北海道と同程度です。平均気温は 10℃と涼しいですが、四季があります。公用語はハンガリー語ですが、学校では 2 か国語を学習するそうです。
- 2) 様々なスープ料理の中でも、バーナーティさんのお母様が作る果物スープ (gyümölcs leves) が一番美味しいとおっしゃっていました。
- 3) 民族楽器には「長い縦笛 (Hosszi Furugla)」「ツィンパロム (Cimbalom)」「テケレ・ニュニエレ (Tekerő lant-nyenyere)」「ターロガトー (Tárogató)」があるそうです。実際に音声を聞きましたが、どれも綺麗な音色でした。



2. ジュヴァルリンスカヤ ナズリンさん (アゼルバイジャン 共同教育学部交換留学生)

母国である、アゼルバイジャンの 1) 歴史的建造物、2) 食べ物、3) 文化について紹介していただきました。ここではそれぞれの分野について紹介をさせていただきます。

- 1) 1～2 世紀に建てられたとされる「乙女の塔」にはいくつかの不思議な物語が言い伝えられており、ゾロアスター教に関係する塔とされているようです。
- 2) 主食とされているパンには「クタブ」「テンディール」「ケター」等複数の種類があるそうです。特にケターは甘いそうです。
- 3) 「ノブルズ祭り」と呼ばれる自然の再生を象徴するお祭りが春分の日に催されています。お祭りでは焚き火を跳びこえることで去年の悪と呼ばれるものを祓う効果があるとされています。



<日本人学生による発表>

神保 朱里さん（群馬大学社会情報学部2年生）

神保さんは、コロナ禍ということもあり、実留学ではなくオンラインで台湾・世新大学へ留学されました。本講演ではそこで経験した中国語講座についての発表をしていただきました。

—中国語講座—

① 講座全体について

講座は初級・中級・上級の3クラスに分かれ、簡体字ではなく繁体字を学習するそうです。世新大学の実際の授業を現地の学生と共にオンラインで受けているそうです。3クラスの中でも初級講座では文法を中心に学習し、授業内での演習や授業後の宿題に取り組むそうです。

② 講座の良い点

質問する人が多いため、より内容を理解しやすいそうです。また、授業の休み時間に受講生同士で名前や趣味についての話をするため、発言しやすい雰囲気があることがメリットだとおっしゃっていました。授業後の復習も丁寧で良いとおっしゃっていました。



<先輩からの発信>

宮田 峻弥さん（JICA 群馬デスク国際協力推進員）2017 年度卒業教育学部国語専攻

宮田さんは、本学を卒業された後、JICA 海外協力隊としてガーナの小学校教育に寄与されました。本公演ではそこでの経験をもとに多文化共生、国際協力について出前講座を行っていただきました。

—ガーナでの活動—

① 子供への支援

ガーナでは机、イスは一人一個無いのが当たり前で教科書を持っている子は全体の一割にも満たないという環境の整っていない場所での活動でした。そこで宮田さんはカードを使ってかけ算ゲームを行うなど身近なものから教材に工夫を凝らして行ったそうです。

② 教師への支援

教材作り勉強会を開き、宮田さんが帰国したのちも自らで考えて授業を行えるような持続可能な支援を行っていた。

③ 婦キャベ海外協力隊

新型コロナウイルスの影響で任期を満了できなかった宮田さんは婦恋のキャベツ農家さんで技能実習生と共にキャベツの収穫に当たっていました。今までとは異なる環境に身を置くことによって自分が世界のためにできることがいかに小さなものなのかと再認識し、現職についたと言います。



—宮田さんからのメッセージ—

国際協力において大切なことは「実情を知り、何ができるのかを常に考え続けること」。この行動がこの先の将来が変わる。もし国際協力をしたい場合は群馬のデスクを訪ねて欲しい。

<意見交流セッション>

Zoom のブレイクアウトルーム機能を活用し、各グループに分かれ意見交換を行いました。学生それぞれが考えたことを発表しあい、より内容への理解が深まりました。

<終わりに>

参加していた先生もおっしゃっていましたが、留学生の日本語が流暢で驚きました。企画を実現させるまで協力してくれた学生、先生方に感謝しています。貴重な経験をする事ができて良かったです。(加藤)

教育学部を卒業された方で世界で羽ばたかっている先輩がいることに非常に刺激を受けました。やりたいことにはどんどん挑戦をして、実りある学生生活を送っていきたいと考えました。(深作)



<文責>

共同教育学部 家政専攻 1年 加藤さくら
共同教育学部 教育専攻 1年 深作優介